

項目	回答
中四国で転入が一番多い自治体	山口県防府市（１５－２４歳の若者世代の転入が多い）※自動車関連企業が集積している
看護師の人材育成について	看護師の人材確保や育成については、第８次広島県保健医療計画に基づいて、国や県で取り組んでおり、第３期廿日市子ども・子育て支援事業計画には含まれていないが、市は広島県ナースセンターが主催する「看護職のための再就職支援セミナー」「いきいき子育て中のナースカフェ」「お休みナースのゆっくりカフェ」などの事業に協力している。
ヤングケアラーへの支援の充実について	ヤングケアラーへの支援として、学校関係者をはじめ、様々な関係機関や地域の方へヤングケアラーとは何か理解を深め、必要に応じて対応できるよう啓発に努める。また、ヤングケアラー本人や周囲の人が気付いたときに、すぐに相談できるよう、窓口を明確にし、家事支援などが必要な場合に対応できるよう関係機関の連携に努め、制度の整備を行う。
保育士の人材確保状況について	全国的な保育士不足の例に漏れず、本市でも十分である状況とは言えない。今後、国で定める保育園での保育士の配置基準の見直しへの対応やこども誰でも通園制度実施への対応の必要もあり、保育士確保のための独自施策を検討中である。
ネウボラの対象と考えている範囲	国が示すガイドラインでは、「ネウボラ」の主な業務として、母子保健施策と子育て支援施策の両面から、妊娠期から子育て期（特に３歳までの乳幼児期）の子育て施策について、支援が利用者の目線から見て、切れ目なく一貫性のあるものとして提供されるようマネジメントを行うこととされている。また、こども家庭庁は５歳児健診の必要性を唱えており、本市も令和７年度から５歳児健診を検討している。これらのことを踏まえ、本市は妊娠期から就学前の乳幼児までをネウボラで対応するものと考えている。
保育園の先の見通しと現状	４月１日時点では待機児童は発生していないが、０～２歳については年度途中で発生している状況である。今後、市全体では就園児童数の減少を見込んでおり、それに応じた定員の適正化に取り組むとともに、増加が見込まれる一部の地域においては対応できる体制を確保していきたいと考えている。